

## 原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和2年9月9日（水）
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：更田委員長

### <質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから9月9日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

では、ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

今日の会合、定例会の最後のほうに出ました大飯3号機の一次冷却系の配管のひびが入っていた問題ですけれども、審査会合を開こうと指示されましたけれども、その確認したい点とか、その目的等についてちょっとお話を伺いたいと思うのですが。

○更田委員長 もう既に委員会の中で資料とともにお示したものですけれども、供用期間中検査において欠陥が見つかったと。維持規格が定めているとおり割れが見つかったので、その評価をしましょうと。有意な欠陥かということで、今、評価の第二段階に入っていて、評価フローが資料にあったと思うのですが、第二段階に入っていて、そして、その亀裂の今後の進展を予測して、通常の維持規格の定めるところでいえば、第二段階の評価というのは、今後10年間このまま使えるかどうかという評価をするわけですけれども、これまでのところ、もう既に関西電力は、次期定検で補修をするという意向を表明されていますので、当面、判断すべきは、今後1年間の亀裂の進展と、それから破壊に至るかかどうかという評価になろうかと思えます。

評価については、既に関西電力は関西電力なりの評価結果を伝えてきていて、彼らの評価を1年間というよりは、今後10年間に対する評価ですけれども、継続利用が可能であるという評価を伝えてきているのですが、ただ、ざっくりした言い方をすると評価結果だけであって、その評価の途中のプロセスといいますか、途中の内容に関しては、まだ明確でない点があるので。

検査結果に関するものであるもので、ちょっとヒアリングを重ねる形で今まで情報を得ているわけですけれども、検査については特段、その公開の会合の開催というようなものを今までスキームとして規定してきたわけではないのですが、技術的な内容について、またデータについて話を聞くわけですので公開の会合、審査会合ではないですけどね、公開の会合を設定して、金子審議官ヘッドで、公開の場で関西電力から評価内

容について話を聞くというのが現在の段階です。

委員会の中でも、山中委員からも発言がありましたし、私のほうからも申し上げましたけれども、BWRのSCCという、応力腐食割れというのは、これは有意な懸念があって、これまでも研究や評価の積み重ねがある。維持規格の中でもSCCによる応力腐食割れによる亀裂の進展速度式というようなものが維持規格の中で規定をされています。

一方、PWRの場合はこの応力腐食割れって、まあ視野の中にはないというわけではありませぬけれども、これまで事例が、少なくとも国内ではないと思います。研究の中で僅かに一次系のSCCについては検討すべしというようなことが、INSSって、これは関西電力の研究組織ですけども、等でも指摘をしているところで、技術的に意識はされていたけれども、実際上の大きな懸念として視野に入っていたわけではないので、維持規格でもSCCの進展速度式というのは規定はされていません。BWRに比べれば、ずっと亀裂の進展速度というのは遅いと言われているけれども、それをどう関西電力が評価しているのかというのはこれから聞いていくことになるだろうというふうに思います。

○記者 法令上問題はないから、まあ別に再稼動しても構わないと言えば構わないのでしょうけども、とは言っても会合を開く等々ということで、関西電力から話を聞くことになるとと思いますが、そうしますと3月末に3号機は再稼動と発電を再開することを日程としていたのですが、その辺の日程感に影響を与える可能性が出てくるとも解釈できますが、その辺はどのように御覧になっていますか。

○更田委員長 燃料装荷は、元の予定では、先週末に予定をされていたので、既に起動に対するスケジュールに対しては影響が出ています。

これは先ほど申し上げたようになかなか珍しいといえますか、PWRでというのは、そうですね、驚きと言うとちょっとふさわしくないかもしれないけれども、それでもやはりPでこういうことって余り聞かないので。それから、溶接の際の熱影響部から溶接金属のほうへ向けて入っているような絵が今日、描かれていましたけども、BWRだったら、も維持規格で定める亀裂進展速度式を適用して二段階目の評価というのがずっと行くのでしょうけれども、Pであるということが一つの大きなポイントで、Pで見つかったものですので少し、まあそんなに長期間にわたるわけではないですけども、関西電力の評価内容、その結果だけ聞いてというわけには、やはりいきませんので、どういった評価をした結果こうなったのかということについては、聞いて、その上で次のステップに進んでいくということになるろうと思いますので、まだ今その燃料装荷がいつになるというふうにタイミングが言える段階にはありませんから、そういった意味では既に影響は出ているし、今後も関西電力の情報や評価内容の伝え方といえますか、その内容によるとしか今の時点では申し上げられないですね。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、フジオカさん。

○記者 NHK のフジオカです。

先ほどの質問にも関連するのですが、今後、公開会合を開いて行って、その中で説明を聞かれるということですが、その結果次第、例えば新たに危険につながるようなものが出てきたりしたような場合は、これは例えば同じ PWR を抱えるほかの電力への影響といったものは考えられるのでしょうか。

○更田委員長 今の時点でそれを特定するのは難しいですし、まだ時期尚早ではあると思います。ただ、ちょっと可能な方策があれば、少し海外の事例も聞いてみたいと思いますが、PWR の一次系って本当にちょっと聞かないのですね。

さらに、BWR の亀裂進展速度と比較した場合、ずっと遅いというのは言われてはいるのだけど、桁で違うくらい遅いだろうと言われてはいるけれども、それはどう評価できるのか。これは、例えば加工度は、そもそも製作するときの加工度によっても亀裂進展速度は変化していきますので、その辺りの情報を関西電力からもらわないと、私たち自身の感度解析みたいなこともできませんので。

他電力であるとか他機、他号機に対するということについては、今の時点で特に何かを考えているわけではありません。

○記者 その上で、ちょっとそもそもになるのですが、今回の事例のリスクというところを見た場合、かなり委員長も第二段階の評価ともおっしゃってはいるのですが、かなり現時点では、例えば、あと 1 サイクル動かすくらいの耐久度も含めてリスクはそう大きくないというふうに見ているということなのでしょうか。

○更田委員長 ごくごく一般論から言えば、内側から入った亀裂というのは外側に向かうに従って周方向の応力が小さくなりますから、亀裂の進展というのは遅くなる方向にあって、それから、これも一般論ですけども、PWR における応力腐食割れの進展というのは、BWR のケースよりはずっと小さい、ほぼほぼ、桁で違うくらい小さいと言われていて。ぱっと見たときのおおよその工学的な判断からしたら、10 年間となるとちょっと分からないけれども、1 年間で必要な肉厚を下回るというのは、ちょっと考えにくいと思っています。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、ヒロエさん。

○記者 共同通信のヒロエといいます。

先ほどの大飯 3 号機の件で、追加で質問したいのですが、PWR で珍しいとか、海外事例も聞いてみたいと発言されていましたが、そうやって考えると公開会合は結構、何回もやるようなイメージがあるのでしょうか。

○更田委員長 これは、ですから、対応次第としか申し上げようがないです。私たちが持

っている意識であるとか問いかけというのは、関西電力は十分理解をされていることと  
思いますので、情報を小出しにして、こちらの様子を見るというような態度を取らな  
ければ早く終わると思いますし、これまでもちょっと注文をつけてきましたけど、本当  
に情報をちょこちょこっと小出しにしてこちらの反応をうかがうというようなアプ  
ローチを取るのであれば、時間がかかるかもしれないですけども、これはやってみ  
ないと分からないです。

- 記者 関西電力のほうは応力腐食割れが原因だというふうに推定していますが、そ  
こから疑うというか、そこから規制委員会としても調べるというお考えなのでは  
しょうか。
- 更田委員長 使用中の機器の内側から入っている亀裂ですから、メカニズムを確  
定させるのは不可能だと思っています。破面を見れば一目瞭然で、疲労であるか  
SCC であるかというのは分かりますけども、あるいは、研究レベルで言ったら  
テープみたいなものを貼ってという、剥がしてとかというようなものもなくは  
ないらしいですけども、実際に供用中の機器の内側から入ったクラックに関  
して、その原因は 100%こうであると言うのは事実上、不可能だと思っ  
ています。そうであるから推定メカニズムを幾つか考えて、そこへ保守的な  
過程を置いて、それでも必要な肉厚を下回らないということを見ていく  
ことになると思っています。

これも一般的な、工学的な感覚ではあるのですが、亀裂が入っている部位から  
すると、溶接時の熱影響部から亀裂が入って、これも BWR での知見ですが、熱  
影響部から入って熱影響部に沿ってクラックが入っていくケースと、それから、  
溶接部、溶接金属のほうへ亀裂が入っていくケースとありますけども、今日、  
関西電力が示している絵では、熱影響部から入って溶接のほうへ亀裂が入  
っている。一般論からすると、関西電力が応力腐食割れであると推定するの  
は、常識的な推定だというふうには思いません。

- 記者 あと、BWR ではあるけど P では非常に珍しいと言われていたのです  
けど、そこがちょっとよく理解できていなくて、簡単にできれば説明いた  
だきたいなと思うのです。そこに通っているのは一次冷却で、温度がそ  
もそも違うとか、そういう感じなのですか。
- 更田委員長 要因は多数ありますけども、代表的なものを一つお答え  
するとすると、水化学が違います。PWR の一次系を流れている冷却材と、  
BWR の冷却材の水化学の条件が違うというのは代表的な違いになり  
ますし、それから、素材そのものの違いもあります。

- 司会 ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。